

ワーキンググループでの検討事項

目標：物質収支の把握、精度向上

H22年度

現状認識
課題抽出

①
流入負荷量
把握の
精度向上

②
湖底と湖水の物
質収支の検証

③
その他の物質
収支の検証

シミュレーション
モデルの
構築、活用

メカニズム解明
WG報告書作成

H23年度

調査(知見の集積)

山林系原単位を整理する

斐伊川からの負荷量をLQにより把握する(A)

底質から溶出したりんの挙動(流出・再沈降)を定量する(B)

プランクトン種の出現頻度を把握する(B)

植物プランクトンの存在比を把握する(E)

難分解性有機物の量を把握する(H)

塩分成層と負酸素濃度の変動について把握する(I)

地形データの精査等により、
塩分再現性の向上を検討する

2000～2011年の気象等の
データを入力する

【施策検討】

結果の整理
WGでの指摘事項に係る検討

H24年度

第1回

まとめ

まとめ①

まとめ

まとめ①

H25年度

第2回

メカニズムのとりまとめ
対策に向けて

第6期湖沼水質保全計画の策定

必要とする調査及び検証

資料4

WG
報告書
骨子

WG報告書
素案

WG報告
書とりま
とめ

継続検討

STDデータ等を利用して、塩分
再現性の向上を検討する